

2008年度 北海道大学遠友学舎炉辺談話

「遠友学舎炉辺談話」は北大創基 125 周年を記念して建った「遠友学舎」を会場に、教員と市民・学生との対話を意図した、誰でも参加できる発見と学びの場として発足しました。講師は北大を代表する研究者です。それぞれの専門の立場から、あるいは各研究科等が世界に発信する研究教育機関としてどのような取り組みをしているかなどについてお話をします。皆様のご来聴を歓迎いたします。

第1回 11月20日(木) 常本照樹 教授 アイヌ・先住民研究センター長 (終了)

「アイヌ民族が先住民族であるという意味」

昨年9月に「先住民族の権利に関する国連宣言」が採択され、今年6月には国会が「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」を採択しました。そして、政府はこれを受けて国連宣言を参照しながら我が国の実情に合った総合的政策の検討を開始しています。今回は、これらの動きが日本社会に対して持つ意味を考えます。 ※ **北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの共催**

第2回 12月18日(木) 町野和夫 教授 経済学研究科長 (終了)

「経済学の中の人間——合理的意思決定から感情的意思決定まで——」

限られた経済的意思決定をする合理的個人のみを前提としていた経済学も、最近では、ニューロサイエンス（神経科学あるいは脳科学）などの成果を踏まえた、よりリアルな人間を前提に研究を進め、その政策への応用も始まっています。今回はこのような経済学の最新動向について具体例を使いながらできるだけ分かり易く紹介します。

第3回 1月22日(木) 松井博和 教授 生涯学習計画研究部長

「遺伝子組換え作物から考えるこれからの科学技術と社会のあり方」

遺伝子組換え作物は、賛成あるいは反対と二者択一の議論がなされています。北海道は、全国に先駆けて栽培条例を策定しました。座長としての見解、条例内容、一般市民との対話で得られたこと、そしてこの問題から、これからの科学技術のあり方をお話し致します。

第4回 2月5日(木) 服部昭仁 教授 農学研究科長

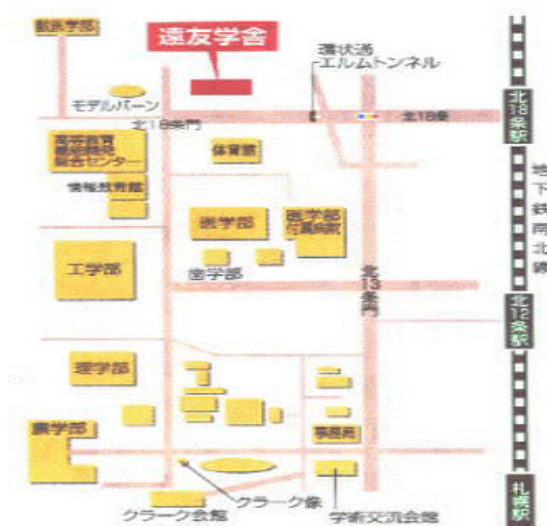
「迫りくる食料危機」

地球人口の爆発的増加による食料危機が早くから叫ばれていたが、今日、食物とエネルギーをめぐる穀物の争奪に伴う、新たな食料危機が生じている。さらに、温暖化、水危機も加わり、じわじわと地球を浸食している。いたずらに危機感を煽るわけではないが、世界の現状と日本の実態を伝えることで、警鐘を促したい。

時 刻：午後6：30～8：30

会 場：北海道大学遠友学舎 札幌市北区北 18 条西 6 丁目

受講料：無 料（事前の申し込みは不要です。直接会場にお越しください）



遠友学舎の外観



《主催・問合せ先》

北海道大学 高等教育機能開発総合センター

生涯學習計畫研究部 TEL: 011-706-6069

E-mail syogai@high.hokudai.ac.jp